## 2022年度 国内研究制度 研究員

所属	氏名	職位	種別	期間	主たる研究先	研究題目	研究報告	備考
経済	MENISH,Marc C.	教授	長期 (1年)	2022.4.1 ~ 2023.3.31	法政大学 沖縄文化研究所	"Ethnomusicological Study of Traditional Island Cultures: A Multilingual Comparative Research Project"	My research consisted of 4.5 months of living in Okinawa prefecture (mostly in the Shuri area of Naha City), but also included extensive travel in the Okinawa main island, Ishigaki Island, Iriomote Island, and Miyako Island. In addition to interviewing over 25 active musicians and dancers, I was able to interview museum staff, Sanshin makers, and other people associated with Okinawa's Musical culture. In total, I recorded 70+ hours of interviews and live performances.  This footage contains valuable insights into the production of the Sanshin as well as the history surrounding this unique instrument. To commemorate this research, and to introduce Tokyo citizens to this amazing repertoire, we will host an academic symposium at AGU to share Ryukyuan music and culture with our students, staff and faculty.	
国政	PODALKO,Petr	教授	長期 (1年)	2022.9.1 ~ 2023.8.31	早稲田大学総合研究機構 ロシア東欧研究所	日露文化交流史と人事の問題-東アジア各地におけるロシア外交官たちを中心に-	多数の資料や研究テーマの最新データの情報を得て、さらに自分の調査を引き続き行い、それを論文などの形に公表する予定です。新しいアイディア、新アプローチをもって、研究の幅を広げてまいります。この一年間でいくつもの発表や原稿の作成をすることができ、大学に感謝を申し上げます。	
総文	矢野 晋吾	教授	長期 (1年)	2022.4.1 ~ 2023.3.31	東京大学	①家畜・家禽類と人間との関わりに関する文化政策学的研究 ②黎明期農村研究からみる問題意識の現代的意義及び 海外社会学の影響に関する研究	2つの研究課題に取り組んだ。①「家畜・家禽類と人間との関わりに関する文化政策学的研究」については、天然記念物指定を受けた家畜・家禽類を「生物文化財」と位置付け、その保全に関する資料収集及び成果の報告・執筆を行った(「生き物文化誌学会」及び「肥後ちゃぼ保存会」「での招待講演、同学会誌へ研究論文)。②「黎明期農村研究からみる問題意識の現代的意義及び海外社会学の影響に関する研究」については、2013~2021年度に科学研究費の研究代表者として研究を進めてきたが、本年度は、収集資料の公開に向けた作業及び黎明期農村研究関係者へのインタビュー調査をさらに進めた。	

1/1 更新日:2024/3/15